

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

1. 「チームさやま」として頑張る生徒を全力で応援し課題を抱える生徒をトコトン支える熱い学校（卓越性と公平性の追求）
2. 自分の夢に向かって自発的に学習し、仲間と共に積極的に部活動・学校行事に参加するバランスのとれた生徒の育成
3. 規律正しい生活習慣・学習習慣を確立し、あいさつ、掃除（整理整頓）、時間厳守（遅刻減少）をさらに向上させるとともに、他者へ思いやりのある生徒の育成（笑顔あふれる綺麗な学校）
4. 国際交流（姉妹校連携）と地域連携（大阪狭山市唯一の高等学校）の双方に軸足を置いた Glocal High School を推進し国際感覚を備えた地域に貢献できる若きリーダーの育成
5. 元気でたくましい生徒があふれる「明るくさわやかな学び舎」「安全・安心の学び舎」づくり

2 中期的目標

1.さらなる学力向上と進路保障

(1) 新学習指導要領に則して思考力・判断力・表現力を育成する授業づくりに取り組む。

ア. アクティブ・ラーニングの推進、調べ学習・グループワークを取り入れ、議論を通じて思考力・判断力・表現力を向上させる。

* 思考の発芽（図書館・インターネットの活用）、思考の見える化（カードやホワイトボードの活用）、思考のゆさぶり（発表 / 質問 / 議論 / 教師のアドバイス）
講義型授業から思考を引出しさらなる高みの授業へ転換する。

イ. プロジェクターやタブレット端末等 ICT 機器を活用して生徒の興味・関心を引き出すとともに教員と生徒及び生徒同士でキャッチボールができる双方向の授業を行い真の理解をめざす質の高い授業を行う。

ウ. 進路別授業、実験・実習の充実により全教科で体験型のわかる授業を展開する。

(2) 第一志望を実現する進路指導を進め、個別指導、家庭学習指導の充実を図ることで、夢がかなう進路保障に結び付ける。

ア. 生徒の進路希望を尊重したカリキュラムマネジメントを行い主体的な学びや意欲的な学びを引き出す。

イ. 受験用学習教材や模擬テストを活用し3年間を通じた客観的な学力把握とデータに基づく精度の高い受験指導を行う。

ウ. 早朝、放課後の講習・補習及び長期休暇中の学習イベントにより「わかる・できる」を体感させる。

生徒向け学校教育自己診断「授業満足度」（令和元年度 77.5%）、「授業の工夫度」（令和元年度 83.9%）、「カリキュラム満足度」（令和元年度 77.7%）

を令和4年度に3項目すべて80%以上をめざす。（「授業満足度 H29:73.1%、H30:65.1%、R1:77.5%）「授業の工夫度」（H29:78.9%、H30:78.2%、R1:83.9%）「カリキュラム満足度」（H29:76.7%、H30:72.3%、R1:77.7%）

進路ガイダンス/進学講習の充実（令和元年度 81.9%）を令和4年度に80%以上を維持・向上する。（H29:80.2%、H30:79.8%、R1:81.9%）

国公立・関関同立 合格のべ70名以上をめざす。（H29:74人 H30:70人 R1:39人）

2.キャリア教育のための環境づくり

(1) 夢をえがく力、夢をかなえる力を養成し将来に向かって飛躍できるプログラムを展開する。

ア. 「総合的な探求学習」や「道徳教育」を着実に実施し将来を見据えた人格形成を促す。

イ. 地域連携、国際交流を通じて人とのかかわりを体験させる。

ウ. 将来の生き方を見据えた「進路」を決定するために必要なプログラムを準備する。

エ. 読書活動を推進する（ビブリオバトルをさらに活性化させ読書の質と量の向上を図る）。

(2) 互いの違いを認め合う人権尊重意識の向上に取り組む。

ア. すべての生徒に、基本的な人権や人権問題の認識を広め、高い人権意識を育てる。

生徒向け自己診断「人権（人権の尊重）」の肯定的評価80%以上を維持・向上する（H29:69%、H30:77.7%、R1:81.9%）

(3) 学校生活の充実に向けた体制作りに取り組む。

ア. 学校としての相談体制を明確にするとともに、学年団（担任）及び部活動における相談体制を確立する。

イ. クラブ部活動、生徒会活動等の活性化と参画の継続を図るとともに、退部した生徒のフォローに努める。

生徒向け学校教育自己診断「学校生活満足度」（令和元年度 83.3%）を令和4年度に90%以上をめざす。（H29:78.4%、H30:78.2%、R1:83.3%）

「相談体制満足度」（令和元年度 68.1%）を令和4年度に70%以上をめざす。（H29:73.4%、H30:56.7%、R1:68.1%）

3.学校改革に向けての盤石な体制づくり

(1) 教職員全員が参加する「チームさやま」体制を発展させる。

ア. 新学習指導要領に対応するカリキュラムマネジメント及びアクティブ・ラーニング型授業推進に向け教職員全体で取り組む。

イ. 安全・安心の学び舎づくり（人権意識を高め、いじめ・体罰「0」を継続するために教職員研修を実施するとともに組織的な対応を推進する。

加えて、地震・台風等の自然災害、新型コロナウイルス・インフルエンザ等の感染症、食物アレルギー、熱中症等の健康安全確保のための情報共有
対応力向上に資する教職員研修を行う）。

ウ. 職務の平準化を図り、教員相互のチーム力を発揮し、超過勤務の削減及び各種休暇の計画的取得を推進する。

エ. 「文化部フェスタ」等の実施により地域の中学生や市民の方々に狭山高校の魅力を発信し学校と地域の交流を深める。

(2) 学校を取り巻くステークホルダー（保護者、同窓会、地域行政、地域住民）との関係強化に取り組む。

(3) 学校運営協議会の提言を具現化する。

教員向け学校教育自己診断【学校運営の勤務充実度】（令和元年度 81.1%）を令和4年度に90%以上をめざす。（H29:84.9%、H30:86.8%、R1:81.1%）

保護者向け学校教育自己診断【学校満足度】（令和元年度 89.5%）を令和4年度に90%以上をめざす。（H29:78.2%、H30:83.3%、R1:89.5%）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 さらなる学力の向上及び進路の保証	<p>(1) 生徒が主体的に学べる充実した授業の実現に取り組む。</p> <p>ア. グループワーク導入による協同的学び、発表能力の向上</p> <p>イ. ICTの活用による教員と生徒の対話の実現及び授業の効率化</p> <p>ウ. 少人数展開、進路別授業等同質集団による授業の質の向上</p> <p>エ. アクティブ・ラーニング型授業の推進</p> <p>(2) 個に応じた希望進路の実現</p>	<p>(授業力の向上)</p> <p>ア. グループワークを取り入れ、少人数で協同作業、討論を行うことにより生徒の思考力・判断力・表現力向上させる。</p> <p>イ. タブレット端末を含む ICT を活用することで生徒の興味・関心を引き出し、教員と生徒がキャッチボールしやすい環境をつくる。また、プロジェクター、黒板、プリント等をバランスよく用いて集中力を持続させ、授業第一主義で臨む。</p> <p>ウ. 少人数展開、進路別授業で理解度を向上させる。また、実験・実習を充実させ経験値を上げることで理解度を向上させる。</p> <p>エ. アクティブ・ラーニング型授業を推進する。ノウハウ・教材を共有することで職務の効率化を図る。</p> <p>ア. 3年間を通じた進路指導により進路に対する意識を高め第1志望につながる学びに結実させる。</p> <p>イ. 進路講習・補習・8時間耐久勉強会を充実させる。</p>	<p>【 】は学校教育自己診断による そう思う/どちらかといえばそう思うと答えた肯定的意見の%を表示 【授業満足度 80%】 (令和元年度77.5%):生徒 【授業工夫 80%】 (令和元年度83.9%):生徒 【カリキュラム満足度80%】 (令和元年度77.7%):生徒 授業アンケート教員平均3.2以上 (R1. 授業アンケート: 3.19 3.22) ・各教科におけるアクティブ・ラーニング型の研究授業実施 ・国公立大学および関関同立合格者: 延べ70名以上 【進路実績向上 PT による改革】 進路実績向上 PT(仮称)を立ち上げ進路実績向上をめざしてカリキュラム、補習、部活動・行事・広報を含めた学校運営全般の見直し及び改革を断行する。</p>	
2 キャリア教育のための環境づくり	<p>(1) 将来の生き方を考えることができるプログラムを展開する。</p> <p>ア. 地域連携、国際交流の充実に向けた体制整備</p> <p>イ. 当面の進路決定に必要なプログラムの準備</p> <p>ウ. 読書活動の推進</p> <p>エ. 「さやまスタンダード」の徹底</p> <p>(2) 人権尊重意識の向上に取り組む。</p> <p>ア. 多様な人権教育の推進と適切な対応</p> <p>(3) 学校生活の充実に向けた体制づくりに取り組む。</p> <p>ア. 相談体制の明確化及び確立</p> <p>イ. 部活動、学校行事のさらなる活性化</p>	<p>(キャリア教育)</p> <p>キャリア教育を「生きること、学ぶこと、将来の職業を一体化させること」ととらえ、狭山生に自発・自律した人間として早期に目標を持たせ、将来の生き方を考えさせる。</p> <p>ア. 狭山池まつり等の地域活動を通じて、また幼・小・中学校との連携を通じてボランティアの意味を考えさせる。また、国際交流活動を充実させ、Glocal(国際交流+地域連携)の更なる発展を実現する。</p> <p>イ. キャリアガイダンス等進路選択に必要なプログラムを用いて、進路指導室、自習室をさらに活用する。</p> <p>ウ. マイメモリーを用いた読書活動を通じ、読書習慣を身につけさせる。また、学校図書を有効に活用し、読書活動を推進するとともに、ピブリオバトルでその成果を確認する。</p> <p>エ. 狭山生として必要なルール(挨拶、清掃、ルール遵守)を徹底し笑顔あふれる綺麗な学校を創る。</p> <p>(人権)</p> <p>ア. 全ての生徒の人権意識を高め多様性を認め合う生徒集団を作り「ともに学ぶともに育つ」を考え実践する。</p> <p>(相談体制)</p> <p>ア. 学校としての相談体制をより強固にして教職員全員で情報共有と生徒の課題を解決する相談体制を充実・発展させる。</p> <p>イ. 部活動、生徒会活動等の活性化と参画の継続を図ると共に、途中で退部した生徒のフォローに努める。</p>	<p>【 】は学校教育自己診断による 【キャリア教育満足度 80%以上】 (令和元年度81.9%):生徒 【地域連携参加 70%以上】 (令和元年度65.6%):生徒 【国際交流参画意識 70%以上】 (令和元年度73.5%):生徒 ・ピブリオバトル本大会出場3回目をめざす。 ・遅刻件数 600 件以内 (令和元年度 673 件) 【学校生活満足度 85%以上】 (令和元年度83.3%):生徒 (令和元年度89.6%):保護者 【人権意識 80%以上】 (令和元年度 81.9%):生徒 【相談体制の満足度 70%以上】 (令和元年度カウンセリングマインドを持った対応 75%:教職員、令和元年度気軽に相談 71.4%保護者) 【部活動 70%、学校行事満足度 85%以上】(令和元年度 部活動 69.4% 学校行事 84.1%)</p>	
3 学校改革に向けての盤石な体制づくり	<p>(1) 教職員全員が当事者意識を持って学校経営に参加する体制づくりに取り組む。</p> <p>ア. 経営会議による学校改革の PDCA 推進と学校の将来像の検討提案</p> <p>イ. いじめ・体罰「0」を継続するため教職員間で人権意識を高める</p> <p>ウ. 命を守る防災教育の推進</p> <p>エ. 健康・安全確保の取り組みを徹底する</p> <p>オ. 教職員間の協力体制をさらに強固にし「チームさやま」で全員参加の学校経営を推進</p> <p>カ. PTA、同窓会等活動の活性化に取り組む。</p>	<p>ア. H31 年度は新学習指導要領移行期間に入り総合的な探求の時間及び道徳教育推進教師を中心とした道徳教育に教職員が一致協力して事にあたる。</p> <p>イ. 安全・安心の学び舎づくりのため人権意識を高め努々いじめ等が生起しない確固たる組織づくりを行い、万一一いじめ・体罰事象・差別事象が生じた場合に正確かつスピーディーな対応を行う。</p> <p>ウ. 自然災害から身を守る防災教育を推進すると共に大規模自然災害発生時の生徒の安全確保の取組みを徹底する。</p> <p>エ. 新型コロナウイルス感染対策及びインフルエンザやノロウイルス等の感染症予防、熱中症対策、食物アレルギー対策、AED 使用を周知徹底する。</p> <p>オ. 学年・分掌・教科で行う職務において「チームさやま」をより強固なものにし一致協力して遂行することで各人の職務の平準化・効率化を図る。</p> <p>カ. PTA、後援会及び同窓会との連携を強め、学校の応援団としての活動の活性化を促進する。</p>	<p>【 】は学校教育自己診断による 【人権意識 80%以上】 (令和元年度 76.5%):教職員 【いじめ(真剣な対応)80%以上】 (令和元年度 81.4%):生徒 【いじめ(体制と迅速な対応)80%以上】 (令和元年度 78.8%):教職員 【危機管理 80%以上】 (令和元年度 69.8%:教職員) ・地震・火災を想定した年2回の防災訓練時に台風も含めた命を守る防災教育を実施する。 ・感染症、熱中症、食物アレルギー生徒の健康・安全予防に関する情報共有、職員研修を徹底する。 【勤務の充実度 80%以上】 (令和元年度 81.1%):教職員</p>	